



## 2021年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年11月13日  
上場取引所 東

上場会社名 石光商事株式会社  
 コード番号 2750 URL <http://www.ishimitsu.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 石脇 智広  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部門長 (氏名) 吉川 宗利 (TEL) 078-861-7791(代表)  
 四半期報告書提出予定日 2020年11月16日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2021年3月期第2四半期の連結業績(2020年4月1日~2020年9月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第2四半期	18,156	△2.6	197	104.1	179	175.3	138	135.5
2020年3月期第2四半期	18,641	△2.4	96	△49.6	65	△69.9	58	△61.5

(注) 包括利益 2021年3月期第2四半期 167百万円( -%) 2020年3月期第2四半期 △15百万円( -%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第2四半期	18.01	—
2020年3月期第2四半期	7.65	—

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第2四半期	26,272	11,848	32.9
2020年3月期	26,235	11,881	31.8

(参考) 自己資本 2021年3月期第2四半期 8,630百万円 2020年3月期 8,351百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	0.00	—	10.00	10.00
2021年3月期	—	0.00	—	—	—
2021年3月期(予想)	—	—	—	8.00	8.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日~2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	40,437	5.9	487	32.0	388	33.6	222	123.7	28.87

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2021年3月期2Q	8,000,000株	2020年3月期	8,000,000株
② 期末自己株式数	2021年3月期2Q	291,991株	2020年3月期	291,991株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2021年3月期2Q	7,708,009株	2020年3月期2Q	7,708,009株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(追加情報) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルスの影響を受け続けており、緊急事態宣言の発出と解除の後、経済活動は緩やかに再開されましたが、感染自体に依然、収束の目処が立たず、雇用・所得環境の悪化により個人消費は足踏みが続く見通しとなっております。

海外に関しても概ね同様の状況で、感染が最初に広まった中国は世界に先駆けて経済活動を再開し景気が回復傾向にあるものの、欧米を中心に多くの国で感染拡大の勢いが止まらず、米中間の政治的対立と相まって、先行き不透明な状況が続いております。

当社グループの主力マーケットである食品業界におきましても、新型コロナウイルスの影響を受け、とくに外食産業におきましては、大人数での飲食を控える動きやお盆の帰省自粛等により客足が伸びず厳しい経営環境が続いております。

当社グループの業績に影響を与える為替相場におきましては、期初107円台で始まり、104円から109円のレンジ内で推移した後、9月末では105円台となりました。

コーヒー業界におきましては、コーヒー相場は期初の1ポンドあたり119.55セントからスタートし、緩やかに相場が下落した後、生産国における新型コロナウイルス感染拡大による供給不安や認証在庫の減少等を材料視した投機筋が市場で買い上げ一時は134セント台まで上昇したものの、9月末にかけて干ばつ懸念があったブラジルで開花をもたらす降雨があったため来年の生産に安堵感が生じ徐々に相場は下落し9月末では110.95セントとなりました。

このような状況のなか、当社グループは、前連結会計年度からスタートさせた中期経営計画「i (アイ) プロジェクト」で企業としての収益確保＝経済的価値とともに掲げている社会的課題の解決＝社会的価値の追求に重点を置いて推進するとともに、全グループ社員の働き方改革に一層取り組んでおります。特に新型コロナウイルスの感染防止を図るため、リモートワークを積極的に展開しながら営業活動の成果が維持されるようIT強化等を強力に推進しております。一方、収益の確保は、外食関連が新型コロナウイルスの影響を余儀なくされていますが、影響を受けていない分野における営業強化と費用節減により挽回に努めております。

その結果、当第2四半期連結累計期間における売上高は18,156百万円（前年同期比2.6%減少）、売上総利益は2,738百万円（前年同期比1.5%増加）、国内・海外出張の自粛や保守的に計上していた貸倒引当金の戻し入れ等により販売費及び一般管理費は減少し、営業利益は197百万円（前年同期比104.1%増加）、経常利益は179百万円（前年同期比175.3%増加）、親会社株主に帰属する四半期純利益は138百万円（前年同期比135.5%増加）となりました。

なお、前連結会計年度末近くに連結子会社化した東京アライドコーヒーロースターズ株式会社の業績は、決算期のズレを踏まえ企業結合上、3カ月分の業績となっております。

各部門別の状況は次のとおりであります。

#### ① コーヒー・飲料部門

##### 1) コーヒー飲料原料

コーヒー生豆は、新型コロナウイルス感染拡大による外出自粛の影響により、家庭用の需要が増加し、特に自家焙煎店に原料を卸す連結子会社であるユーエスフーズ株式会社の販売が増加し、また、外出自粛の影響を受け大きく販売が減少していたコーヒーチェーン店、ホテルや喫茶店向けの業務用についても緊急事態宣言解除後、緩やかな回復基調に留まりましたが、全体としては前年を下回りました。飲料事業についても、業務用の販売が減少いたしました。

また、連結子会社となったことにより東京アライドコーヒーロースターズ株式会社への売上高が計上されないため、前年同期に比べ減少しております。

なお、同社の実績はコーヒー飲料製品で計上しております。

その結果、コーヒー飲料原料の売上高は前年同期比10.9%減少いたしました。

2) コーヒー飲料製品

レギュラーコーヒーは、緊急事態宣言発出に伴う外出自粛により家庭内需要が増加し、コーヒーバッグにおいては、昨年行った製造ラインの設備投資により増産が可能となったこともあり、販売量が大きく増加いたしました。

また、連結子会社となった東京アライドコーヒーロースターズ株式会社の売上高が計上され、前年同期比の主な増加要因となりました。

その結果、コーヒー飲料製品の売上高は前年同期比51.7%増加いたしました。

これらの理由により、コーヒー・飲料部門の売上高は6,561百万円と前年同期比13.9%の増加となり、売上総利益は1,124百万円と前年同期比17.5%の増加となりました。

② 食品部門

1) 加工食品

ドライ商品は、給食ルートでダイスカットフルーツ商品の販売が増加いたしました。新型コロナウイルスの影響に伴う外食の落ち込みにより、フルーツ缶詰、野菜缶詰及びイタリアン食品で一般的に大きくマイナスとなり、売上高は前年同期比20.0%減少いたしました。

フローズン商品は、外食の落ち込みのカバーとして量販総菜向けへ魚フライ商品の売込み強化をした結果、販売が増加いたしました。しかしながら、飲料メーカー向け原料、ブラッドオレンジジュース、チーズの落ち込みにより、売上高は前年同期比16.1%減少いたしました。

メーカー商品はドライ・フローズンともに、新型コロナウイルスによる外食の自粛により、売上高は前年同期比35.8%減少いたしました。

その結果、加工食品の売上高は前年同期比27.9%減少いたしました。

2) 水産及び調理冷蔵

水産は、新型コロナウイルスによる巣ごもり需要により、量販店に向けたこ焼き用タコ原料の販売が増加いたしました。一方、エビは回転寿司業態では持帰りの需要が増えたことで影響は最小限に留まりましたが、その他の外食関連や観光に依存した食品問屋向けの販売が大幅に減少いたしました。

調理冷蔵は、外食向け商品は大きく落ち込みましたが、量販店との鶏肉加工品・原料の開発が順調に進み、加えて、昨年より本格的に取扱いを開始した量販総菜向けの合鴨加工品の販売が増加いたしました。

その結果、水産及び調理冷蔵の売上高は前年同期比6.5%減少いたしました。

3) 農産

生鮮野菜は、カット野菜で順調に販売を拡大することができましたが、国産の豊作の影響もあり玉葱、牛蒡の販売が減少いたしました。

農産加工品は、梅加工品において新型コロナウイルスの影響等により商品開発の遅れもあり大きく販売が減少いたしました。しかしながら、筍がレトルト食品メーカー等の使用量増加により、販売が増加いたしました。また、メーカー向け香辛料の販売が順調に拡大いたしました。

その結果、農産の売上高は前年同期比2.9%増加いたしました。

これらの理由により食品部門の売上高は9,828百万円と前年同期比12.8%の減少となり、売上総利益は1,355百万円と前年同期比9.0%の減少となりました。

③ 海外事業部門

新型コロナウイルスの影響を大きく受けた輸出先もありましたが、小売り向け販売ルートを持つ顧客を中心にネットを通じきめ細かく信頼性のある日本食品を紹介し、営業推進に努めました。更に従前より戦略的に取り組んでいる当社独自の企画・開発品が実を結び始め、また新型コロナウイルスからの立ち直りが比較的早かった国の海外子会社が利益面で下支えしました。

その結果、海外事業部門の売上高は1,766百万円と前年同期比9.7%の増加となり、売上総利益は259百万円と前年同期比3.0%の増加となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は、前連結会計年度末に比べ37百万円増加の26,272百万円となりました。その主な内容は、現預金542百万円の増加と売上債権399百万円の減少です。

(負債)

負債合計は、前連結会計年度末に比べ69百万円増加の14,423百万円となりました。その主な内容は、借入金320百万円の増加と未払金163百万円及び仕入債務150百万円の減少です。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べ32百万円減少の11,848百万円となりました。その主な内容は、東京アライドコーヒーロースターズ株式会社の株式の追加取得による資本剰余金196百万円の増加と非支配株主持分311百万円の減少です。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想及び配当予想につきましては、2020年8月13日に公表いたしました業績予想から変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,724,378	4,266,703
受取手形及び売掛金	8,363,871	7,964,702
商品及び製品	4,131,660	4,666,365
未着商品	899,772	679,648
仕掛品	47,242	36,852
原材料及び貯蔵品	1,235,892	924,776
その他	475,220	389,284
貸倒引当金	△24,135	△24,651
流動資産合計	18,853,903	18,903,681
固定資産		
有形固定資産		
土地	2,640,545	2,640,545
その他(純額)	3,486,440	3,381,889
有形固定資産合計	6,126,986	6,022,435
無形固定資産		
216,613	216,613	188,004
投資その他の資産		
投資有価証券	569,925	720,794
その他	588,241	513,598
貸倒引当金	△126,780	△81,789
投資その他の資産合計	1,031,386	1,152,603
固定資産合計	7,374,986	7,363,043
繰延資産		
6,258	6,258	5,769
資産合計	26,235,148	26,272,495

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,729,774	3,579,642
短期借入金	2,720,000	2,388,000
1年内償還予定の社債	56,000	56,000
1年内返済予定の長期借入金	1,483,156	1,584,476
未払法人税等	37,338	96,223
賞与引当金	226,528	267,170
その他	1,641,569	1,516,660
流動負債合計	9,894,367	9,488,173
固定負債		
社債	316,000	288,000
長期借入金	2,750,864	3,302,436
退職給付に係る負債	346,234	356,690
役員退職慰労引当金	2,591	3,766
資産除去債務	127,992	128,121
その他	915,833	856,449
固定負債合計	4,459,516	4,935,464
負債合計	14,353,883	14,423,638
純資産の部		
株主資本		
資本金	623,200	623,200
資本剰余金	357,466	554,423
利益剰余金	7,366,017	7,427,794
自己株式	△107,540	△107,540
株主資本合計	8,239,143	8,497,878
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	79,761	143,896
繰延ヘッジ損益	10,804	△24,358
為替換算調整勘定	21,679	13,314
その他の包括利益累計額合計	112,245	132,852
非支配株主持分	3,529,875	3,218,126
純資産合計	11,881,264	11,848,857
負債純資産合計	26,235,148	26,272,495



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)
売上高	18,641,006	18,156,079
売上原価	15,943,489	15,417,119
売上総利益	2,697,517	2,738,960
販売費及び一般管理費		
荷造運搬費	497,496	491,921
貸倒引当金繰入額	25,203	△34,775
報酬及び給料手当	626,628	700,377
賞与引当金繰入額	177,617	174,940
その他	1,273,759	1,208,866
販売費及び一般管理費合計	2,600,705	2,541,330
営業利益	96,811	197,629
営業外収益		
受取利息	2,422	3,011
受取配当金	4,336	12,313
受取賃貸料	9,624	8,820
業務委託収入	5,700	5,700
その他	22,517	18,026
営業外収益合計	44,600	47,871
営業外費用		
支払利息	33,929	35,923
持分法による投資損失	28,825	14,668
為替差損	3,800	12,982
その他	9,772	2,764
営業外費用合計	76,328	66,339
経常利益	65,083	179,162
特別損失		
固定資産除却損	0	0
特別損失合計	0	0
税金等調整前四半期純利益	65,083	179,162
法人税、住民税及び事業税	50,594	68,124
法人税等調整額	△29,634	△10,921
法人税等合計	20,959	57,203
四半期純利益	44,123	121,958
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△14,826	△16,897
親会社株主に帰属する四半期純利益	58,950	138,856

## 四半期連結包括利益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
四半期純利益	44,123	121,958
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△8,430	90,417
繰延ヘッジ損益	△20,062	△35,162
為替換算調整勘定	△9,672	△7,928
持分法適用会社に対する持分相当額	△20,962	△1,491
その他の包括利益合計	△59,127	45,833
四半期包括利益	△15,003	167,792
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,317	159,463
非支配株主に係る四半期包括利益	△18,321	8,329

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は2020年4月7日付で、連結子会社東京アライドコーヒーロースターズ株式会社の株式を追加取得いたしました。

この結果、当第2四半期連結累計期間において、資本剰余金が196,957千円増加し、当第2四半期連結会計期間末において資本剰余金が554,423千円となっております。

(追加情報)

新型コロナウイルスの感染拡大とこれに伴う経済活動の停滞は、少なくとも2021年3月期はその影響が継続し、当社グループの業績に影響があるものと考えております。

このため、繰延税金資産の計上にあたっては、四半期連結財務諸表作成時点で入手可能な情報に基づき、一定の仮定を置き将来の課税所得の見積りと回収可能性の判断を行っております。

なお、当該仮定は不確実性が高く、新型コロナウイルスの感染拡大の影響が今後長期化した場合や深刻化した場合には、当社グループの業績もこれに伴い変動し繰延税金資産が減少する可能性があります。

また、当該仮定について、前連結会計年度から重要な変更はありません。